



2010年度 第2四半期決算説明会



2010年 11月15日

ユニチカ株式会社

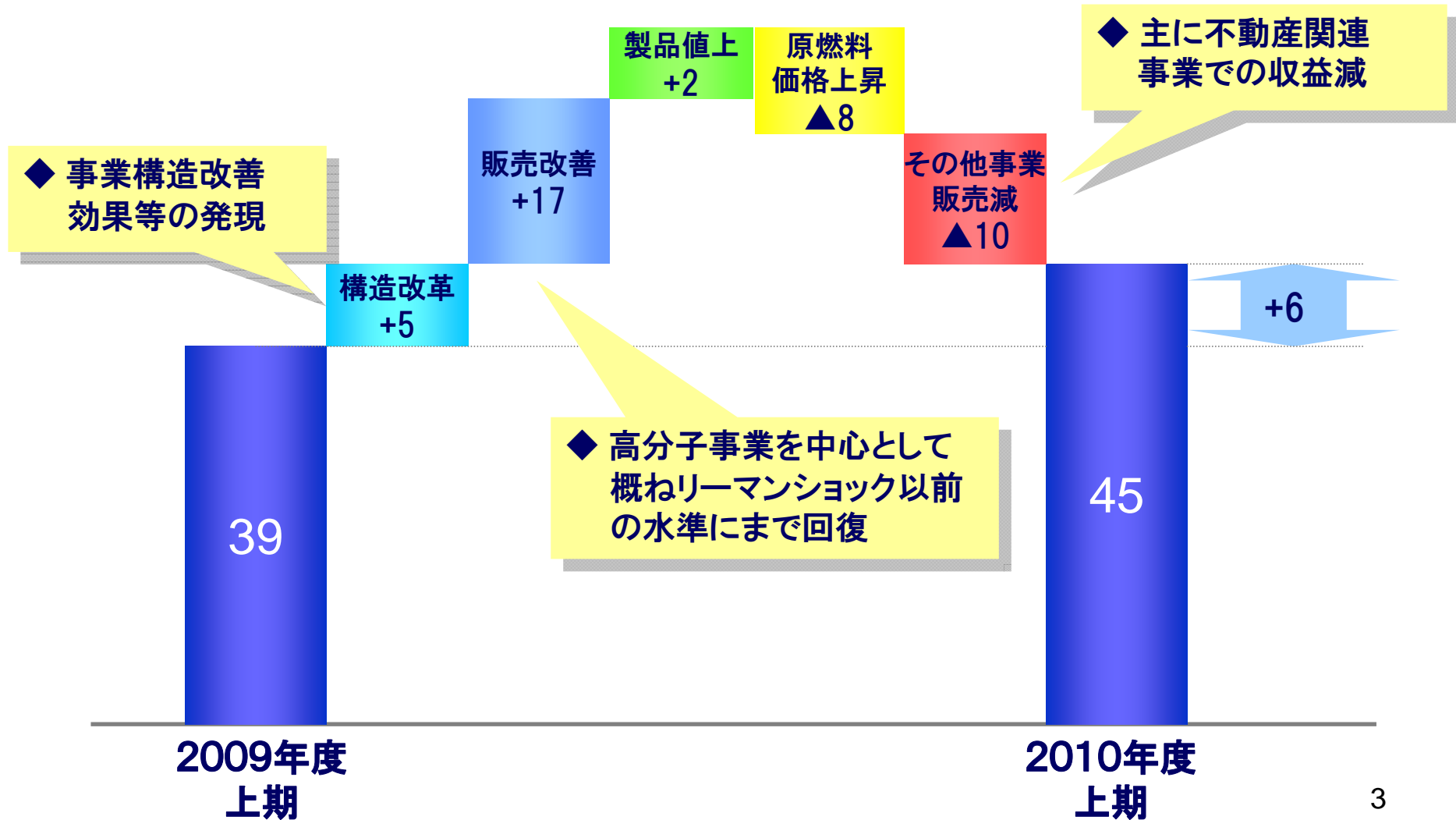
2010年度 第2四半期決算の概要

(金額単位:億円)	2010年度 上期	2009年度 上期	前年同期比増減		当初予想比	
			金額	率	当初予想	差異
売上高	893	902	▲9	▲1%	900	▲7
営業利益	45	39	+6	+15%	40	+5
経常利益	22	19	+3	+17%	20	+2
四半期純利益	11	6	+5	+86%	15	▲4

- ◆不動産関連の収益減、構造改善要因等により微減収となったが、景気回復を背景に高分子の販売が改善する等、全体の基調は増収の方向へ
- ◆樹脂、不織布が好調に推移し収益改善に寄与、繊維事業は構造改善の効果と販売改善などにより営業黒字へ転換
- ◆期末の投資有価証券評価損の計上など想定外の特別損失が発生し、四半期純利益は当初予想を下回ったが増益を確保

営業利益増減要因分析（前年同期比）

（単位：億円）



B/Sの状況

(金額単位:億円)	2010年 9月末	2010年 3月末	前期末比 増減
資産合計	2,720	2,772	▲52
流動資産	1,105	1,136	▲31
固定資産	1,615	1,636	▲21
負債合計	2,474	2,537	▲63
純資産合計	246	235	+11
株主資本	222	207	+15
評価・換算差額等	▲13	▲8	▲4
少数株主持分	37	37	+0
有利子負債	1,911	1,934	▲23
自己資本比率	7.7%	7.2%	+0.5%

〈主な増減要因〉

◆棚卸資産減少等

◆買掛債務減少
借入金減少等

◆純利益計上等

◆土地再評価
差額金取崩等

セグメント別収益変動(まとめ)

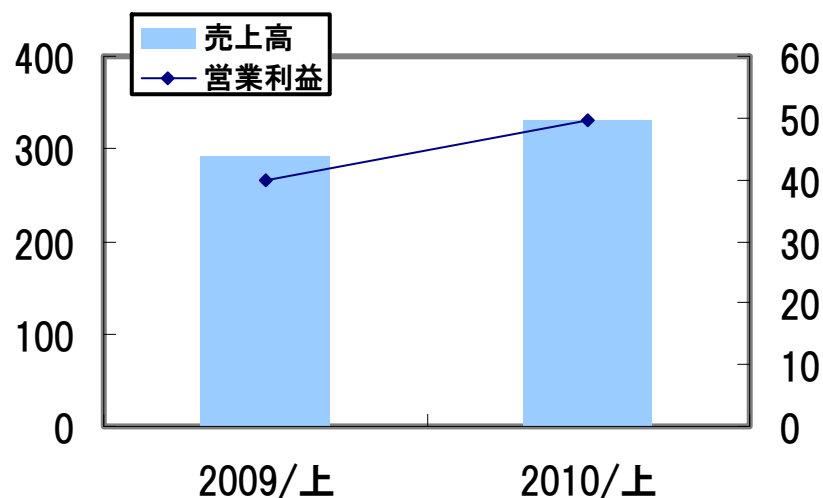
※(注) 当年度第1四半期から会計基準の変更に伴い新セグメントへ移行
09年度上期のセグメント別売上高、営業利益は参考値

(単位:億円)	売上高			営業利益		
	2010年度 上期	2009年度 上期	増減	2010年度 上期	2009年度 上期	増減
高分子	331	292	+39	50	40	+10
機能材	75	74	+1	8	7	+1
繊維	383	385	▲2	0	▲6	+7
その他	104	151	▲47	▲0	10	▲10
消去・全社				▲13	▲11	▲2
合計	893	902	▲9	45	39	+6

セグメント別状況 ◆ 高分子事業

➤ 景気回復基調の中、販売改善、価格改定進捗等で増益確保

(単位:億円)	09年度/上	10年度/上
売上高	292	331
営業利益	40	50
(営業利益率)	14%	15%



※09年度上期の売上高、営業利益は参考値

□ フィルム

[増収・
利益横ばい]

- ◆ 包装分野
販売回復の動きが鈍化
- ◆ 工業分野
電子部品関連等が好調
- ◆ 海外ナイロンは改善基調

□ 樹脂

[増収・増益]

- ◆ 自動車、電機電子関連で
販売回復が進む
- ◆ 「Uポリマー」の改善が顕著

□ 不織布

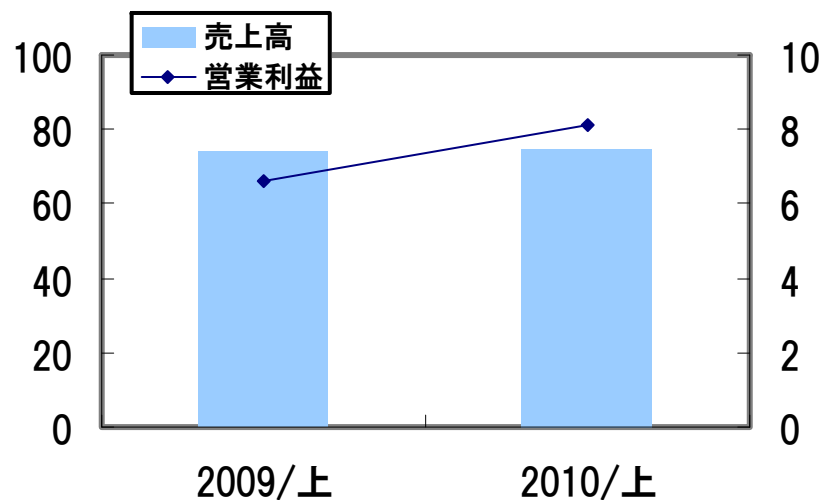
[増収・増益]

- ◆ スパンボンド
農業、輸出向けカーペット、
オムツ向け等が堅調
- ◆ 綿スパンレース
化粧雑貨、産業用ワイパー
向けが好調

セグメント別状況 ◆ 機能材事業

➤ 活性炭繊維は堅調、ガラス関連は収益改善するも弱含み

(単位:億円)	09年度/上	10年度/上
売上高	74	75
営業利益	7	8
(営業利益率)	9%	11%



※09年度上期の売上高、営業利益は参考値

□ 機能材

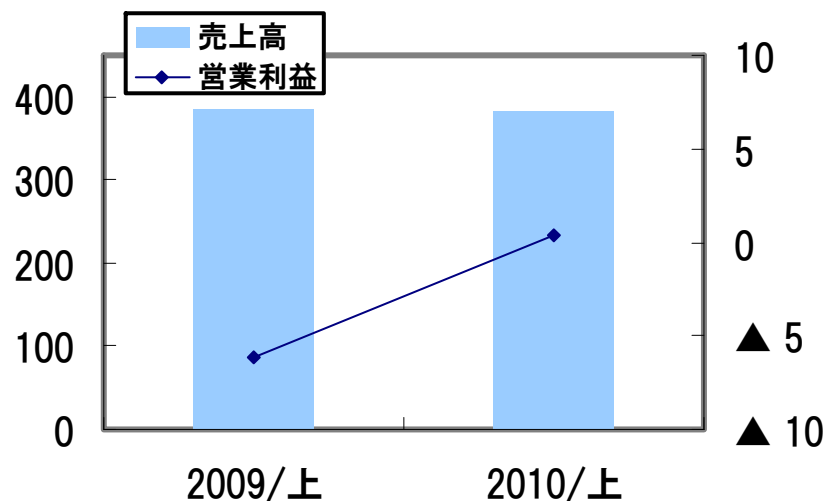
[売上横ばい・増益]

- ◆ 産業用ガラス繊維・クロス
建築需要回復の遅れで
収益改善も弱含み
- ◆ ICクロス
需要回復が不安定、為替
影響、価格競合で苦戦
- ◆ 活性炭繊維
環境、自動車用途で堅調
- ◆ ガラスビーズ
反射材用途が改善

セグメント別状況 ◆ 繊維事業

➤ 構造改善効果、産業繊維の販売改善等により営業黒字化

(単位:億円)	09年度/上	10年度/上
売上高	385	383
営業利益	▲6	0
(営業利益率)	▲2%	0%



※09年度上期の売上高、営業利益は参考値

□ 産業繊維

[増収・増益]

◆ ビニロン繊維

アスベスト代替FRCの欧州向け苦戦、新興国展開強化

◆ ポリエステル高強力糸

建設・工事向けで収益改善

◆ ポリエステル短繊維

不織布用途が堅調

□ 衣料繊維

[減収・増益]

◆ ユニフォームのワーキング、機能素材、婦人衣料等で荷動き堅調

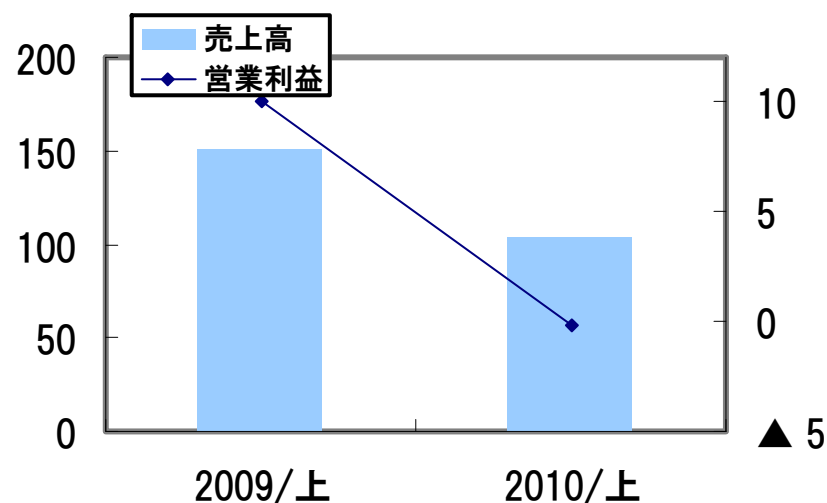
◆ 前年に実施した事業構造改善効果の発現

◆ ユニチカトレーディング(株) 統合発足による事業運営の効率化

セグメント別状況 ◆ その他の事業

➤ 環境事業は採算改善、不動産関連の収益が上期比較で減少

(単位:億円)	09年度/上	10年度/上
売上高	151	104
営業利益	10	▲0
(営業利益率)	7%	0%



※09年度上期の売上高、営業利益は参考値

□ 環境

[減収・
利益横ばい]

◆受注状況が厳しい中、売上は減少基調、水処理中心に販売構成を見直し採算改善

□ 生活健康

[収益横ばい]

◆食品機能素材堅調
(セラミド、アラビノース等)
◆メディカル
循環系カテーテルが伸長
酵素分野は販売回復基調

□ その他

[減収・減益]

◆マンション販売等の不動産関連の収益が上期比較で減少
(物件の販売時期の差異等)

2010年度 通期決算予想

(単位:億円)	2010年度 予想	2009年度 実績	前年度比 増減
売上高	1,900	1,822	+78
営業利益	115	85	+30
経常利益	70	45	+25
当期純利益	60	30	+30

計画策定時与件	2010年度
原油(\$/バレル)	80-85
為替(円/ドル)	90

※期中の為替変動には適宜対応し、進捗をフォロー

- ◆堅調に推移している高分子事業を中心に増益幅を更に拡大、機能材事業の収益伸長、繊維事業の利益改善を推進し、収益基盤の安定化を図る
- ◆中期計画に対し、施策展開としてはオンラインでの進捗を想定

(単位:億円)	2010年度予想		2010年度上期	
	予想	前年度比	実績	前年同期比
減価償却費	63	▲3	30	▲2
設備投資	51	+15	25	+7

セグメント別収益変動 通期予想

※(注) 09年度のセグメント別売上高、営業利益は参考値

(単位:億円)	売上高			営業利益		
	2010年度 予想	2009年度 実績	増減	2010年度 予想	2009年度 実績	増減
高分子	685	609	+76	106	89	+17
機能材	160	155	+5	20	15	+5
繊維	780	775	+5	6	▲5	+11
その他	275	282	▲7	18	21	▲3
消去・全社				▲35	▲34	▲1
合計	1,900	1,822	+78	115	85	+30

営業利益の主な変動要因

※(注) 09年度のセグメント別売上高、営業利益は参考値

(単位:億円)	2010年度 予想	2009年度 実績	増減	主な変動要因(想定)
高分子	106	89	+17	全般的に販売数量の改善基調が続く
機能材	20	15	+5	活性炭繊維伸長、ガラス関連改善
繊維	6	▲5	+11	効率化による採算改善、産業繊維販売改善
その他	18	21	▲3	不動産関連の収益が減少
消去・全社	▲35	▲34	▲1	
合計	115	85	+30	

今後の課題

■ 事業強化施策の推進

- ・ナイロンフィルムの設備増強
〈成長が見込まれる中国・アジアの食品包装市場向けの強化〉
- ・工業用ポリエステルフィルムの差別化品の強化
- ・不織布事業の強化

■ 繊維事業の構造改善

- ・衣料繊維分野の事業運営効率化、事業構成の見直し等

■ 「選択と集中」による体質強化

- ・環境プラント事業の譲渡 〈日立造船(株)グループとの協議開始〉

ご注意

本資料中の予想は、決算発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る決算発表日現在における仮定を前提としているため、実際の業績は、今後の種々の要因によって異なる結果となる可能性があります。